

東北海道現代俳句協会会報

第 16 号 令和5年7月

第三十三回 東北海道現代俳句協会総会

令和五年度の定期総会は、二月十六日釧路市プラザさいわいにて会員数三十三名中、十四名の参加者及び十四通の委任状を以て成立、三年ぶりに対面で開催されました。事前に合同役員会が開催され、議事進行等の確認をしました。

総会に先立ち、亡くなられた村牛歩様、山陰進様へ黙とうを捧げました。また、第九回東北海道現代俳句協会賞の表彰が行われ、準賞の吉野喜代子さん、佳作賞の清水健志さんへ、石川会長より記念の盾が贈られました。（正賞の該当はありませんでした）

その後、議長に石川青狼氏を選任、昨年度の事業・会計決算報告、会計監査報告と、令和五年度事業計画・会計予算案が共に承認されました。続いての句会では二十八句を互選、上位句は次の通りでした。

一位	白湯呑めば臍物に意志寒の明け	齊藤 郁子
二位	風がつついた埋火のような悔い	粥川 青猿
三位	あたたかや尖った耳をととのえる	小飼 紫香

◆◆行事予定◆◆

- ◎月例会句会
毎月第3木曜日 午後1時
よりプラザさいわい
- ◎墨書展
日時 10月9日（木曜日）
- 1 - 日

◆◆会員動向◆◆

6月末現在会員数【31名】
入会 菅原 稊子（釧路）
退会 森下 静子（美幌）
逝去 村 牛歩
（釧路1月7日）
山陰 進
（帯広2月13日）

吉野さん、清水さん おめでとうございます



東北海道現代俳句協会
発行人 石川 青狼
編集人 齊藤 郁子

第三十二回 北海道現代俳句大会 開催

日時 令和五年六月十一日（日曜日）

場所 札幌サンプラザホテル

主管 中北海道現代俳句協会

投句数 612句

講師 堀田 季何氏「楽園」主宰、「短歌」同人

現代俳句協会理事、国際俳句協会理事

現代歌人協会会員、日本歌人クラブ会員、

日本文藝家協会会員

演題 「俳句の韻律」



堀田 季何氏

釧路からは、石川会長、清水健志さん、西村奈津さん、鮎橋事務局、札幌から中村きみどりさんが参加されました。（写真下）

東北道地区関係入賞者

佳作賞 献体は君の品書き冬木の芽 江波戸 明（上士幌）

同 軒氷柱びつしり父の影法師 松原 静子（帯広市）

令和5年6月11日（日）札幌サンプラザを会場に90名余りが参加。講師の現代俳句協会IT部長・堀田季何さんが「俳句の韻律」と題して俳句にとつての音律の重要性を、漢詩や西洋詩からの歴史的な影響を解かりやすく実例を挙げながら紹介。但し単に押韻するのではなく句の意味とも上手く響かせることが大切、と講師の自作なども使い丁寧に解説した。軽快な語り口で時間を感じさせず、多くの示唆に富み刺激的かつ中身の濃い講演だった。

続いて六名の特別選者による作品講評に入るが一番手の石川青狼会長が「私ひとりだけが採っている、さまざまろと思う」と会場を和ませると、続く橋本喜夫さんも「この句は私だけが取っている」と応酬、さらに下五に「難破船」と詠んだ句を讃えて、ファンでもあるという中森明菜の「難破船」を歌いだし、あろうことか一節だけで終わらず三節ほど歌い続ける始末。（失笑） 続く五十嵐秀彦さんがこれを受け「まさか歌うとまでは思わなかった」とツッコミ（爆笑）まるで台本があるかのような展開に大盛り上がり、会場内の空気がしつかりと密になる講評と相成った。

選考結果発表、顕彰のあと懇親会になだれ込む。当日出席者は石川会長、鮎橋、西村、清水、中村（札幌在住）。場所を変えての二次会では震度3に見舞われるというおまけまでついたが、何とも愉しくながしい一日だった。

（清水 健志記）

第三十三回 東北北海道現代俳句総会俳句

令和五年二月十六日 於釧路市プラザさいわ

たちまちに遠景となる木花かな
 コンビニに春風卸すタイミング
 あたたかや尖った耳をととのえる
 白湯吞めば臍物に意志寒の明け
 アンモナイトか除雪車の置土産
 屋根雪の雫奏でるところ
 愛嬌に追いつかぬ酔い猫の妻
 トボトボと歩むが極意凍ての道
 雛飾る野心ほどぼ見える位置
 ものの芽や遮光土偶の幻肢痛
 雪の上に雪ふり積むや人悼む
 朝刊のざわり冷たし世のいびつ
 風がつついた埋火のような悔い
 蓮氷訃報ばかりが押し寄せる

荒川 美恵
 飯沼 風華
 小飼 紫香
 斉藤 郁子
 清水 健志
 寺田 保子
 西村 奈津
 芳賀 知子
 村川三津子
 鮎橋 郁香
 横地 妙子
 吉野喜代子
 粥川 青猿
 石川 青狼

第三十三回 北北海道現代俳句大会

令和五年六月二十五日 於旭川ときわ市民ホール

北海道上川総合振興局長賞

君はサクラ僕はコブシとそう決めた 石川青狼

一月例会

親知らぬ子の歳月や年新た
 冬木の芽うれし涙は拭かない
 めでたさや屠蘇酌む嬢の笑い皺
 七福神乗せて師走の軽四輪
 寒雷や復元ポイントを見失う
 聖夜にも殺戮がある水の星
 裸木や十字狐の越境
 初風呂の泡となつても消えぬ姫
 餅作りのブザー思考の当世流
 霧多布息白くして初日の出
 中吉が小吉励ます初み空
 コンビニの前の再会新成人
 初鏡予備の笑顔はありますか
 長い夜寝しなに磨く古シंक
 読み初めの一書に倦みてアールグレイ
 喉渇くほど積もりけり昨夜の雪
 雪掻くやここは社会の出入り口
 数へ日の一日厨の火に仕へ
 はきはきと雪踏みしめて初出勤
 産土よ河崎秋子を読み初めに
 少女期の未だ終はらず山眠る
 耳ピツと鋭角にする寒の前
 ブラハより君の新着メッセージ

荒川 美恵
 飯沼 風華
 北原 白道
 小飼 紫香
 斉藤 郁子
 佐藤かよ子
 清水 健志
 菅原 釈子
 寺田 保子
 中尾 克彦
 中島 加奈
 中村きみどり
 西村 奈津
 芳賀 知子
 早川千鶴子
 鮎橋 郁香
 村 牛歩
 横地 妙子
 吉田 洋子
 吉野喜代子
 脇本 文子
 脇本 千尋
 石川 青狼

三月例会

姿見の不良老人春の闇

知床に渦まく叫び春の闇

糸遊やレム睡眠の猫を抱く

恋バナの通話中ばかりだつて春

幸多かれマスクのままの卒業生

満月の割れもせず零下三十度

啓蟄やバッグから出すエコバッグ

真冬日を脱げる五体に陽の薫る

お遍路やシヤキシヤキと食む春野菜

納棺の驚上手なほうが啼き

雪女郎トライアングル連打中

雪解水腫の浮く立ち話

失せ物の見つかる日なり山笑う

ブレンドを変えてふんわり春の雪

日にちを使命帯ぶかに生き追儺

春泥や制服はあと一週間

春泥や春は我がものの顔で来る

夕厨たつぷり刻む春キャベツ

晩年は丸くまあるく木の根明く

さまよいて遠き出口や春眠も

強東風は流水風味藻琴駅

谷折りの傷の深さよ北辛夷

素のままで呼吸している春の土

マスクするしない三寒四温かな

飯沼 風華

北原 白道

小飼 紫香

斉藤 郁子

佐藤かよ子

清水 健志

菅原 釈子

寺田 保子

中尾 克彦

中島 加奈

中村きみどり

那珂剣坊子

西村 奈津

芳賀 知子

早川千鶴子

鮎橋 郁香

村川三津子

横地 妙子

吉田 洋子

吉野喜代子

よしざね弓

脇本 文子

脇本 千尋

石川 青狼

四月例会

近く迄来たからと云う花辛夷

凍ゆるむ痺れやわらぎ一歩ずつ

春を待つぬれせんべいの咀嚼音

子らすべて抱いて寝るやピンクムーン

何もかも受け入れている老桜

ふきのとうコンクリートの住み心地

軟膏の「あたま」のシル万愚説

野の風に光はなさぬ猫柳

遍路道避難タワーが空にあり

「石狩挽歌」小さく唄うフリージア

春暁や昨夜の夢の青磁色

鼻唄の飛び出す彼方山笑ふ

地虫出づマトリョーシカの中の真理

転生の標と恃む花辛夷

検針員雪解氷を掻い潜り

消しきれぬ名簿一行四月来る

春めくや肩に手を置くツーショット

信子忌のまう被らざる春帽子

冬囲ひそろそろ力尽きですか

黙考にほどよき長さ辛夷咲く

原発の立地予定地雪濁り

生まれたての欠伸そよそよ露の臺

陽炎や思い出補正まだ半ば

休眠打破とや春愁のアラーム

飯沼 風華

北原 白道

小飼 紫香

斉藤 郁子

佐藤かよ子

清水 健志

菅原 釈子

寺田 保子

中尾 克彦

中島 加奈

中村きみどり

那珂剣坊子

西村 奈津

芳賀 知子

早川千鶴子

鮎橋 郁香

村川三津子

横地 妙子

吉田 洋子

吉野喜代子

よしざね弓

脇本 文子

脇本 千尋

石川 青狼

五月例会

コンクリの背ら一列鼓草
 番号で呼ばれる迄のソーダ水
 風そよぐテニスコートの草青む
 サイフォンにはのお蛙の目借時
 ミサイルの射程圏内鴉の巢
 父母のいた樺太というロシアの地
 声白き鴉よ僕らメメントモリ
 行く春や卅に閉じる段ボール
 細切れの夢に買ひたす種袋
 花吹雪鐘撞堂を覆いたる
 春の空卵消えたと亡母に告ぐ
 浮人風を待ちたる桜の木
 世は将にコロナ文化の春色合い
 母の忌や絶筆は緑のチューリップ
 二年目の空き家の庭のつくしんぼ
 破顔この世に土手一面の福寿草
 曇り時々独りぼくの春靴
 涙もろし春が悲しい訳じゃない
 これを着て師にまみえたし花衣
 春や春気負ひて変へる靴の紐
 旅程表は大きなフォント花芽満つ
 谷地蔭や最後の降車客は猫
 花冷えや少し敬遠気味である

荒川 美恵
 飯沼 風華
 北原 白道
 小飼 紫香
 斉藤 郁子
 佐藤かよ子
 清水 健志
 菅原 釈子
 寺田 保子
 中尾 克彦
 中島 加奈
 中村きみどり
 那珂剣坊子
 西村 奈津
 芳賀 知子
 早川千鶴子
 鮎橋 郁香
 村川三津子
 横地 妙子
 吉田 洋子
 吉野喜代子
 よしざね弓
 石川 青狼

六月吟行句会 六月十五日 於霧多布湿原

海神猛け影のぐらつく海鵜かな
 ヨモギ摘むヒールの女王五里霧中
 綿菅は見えぬ鎖の解けぬまま
 わたすげや我も消えゆく星のひとつ
 木道の後ろ姿の海霧に消ゆ
 ワタスゲや湿原の風無色なる
 わたすげに獣の手触り風戦ぐ
 ワタスゲや母にゆだねるひざまくら
 木道の果てに異界やハナシノブ
 濡れそぼつ黒百合きのふの吾
 濡れしワタスゲ揺れるしなやかな体幹
 青みさき海霧こみ上ぐるはやさかな
 会長のカレーひとつが遅れけり
 濡れしワタスゲ揺れるしなやかな体幹
 海霧の抱擁エトピリカを探せ

小飼 紫香
 斉藤 郁子
 清水 健志
 菅原 釈子
 寺田 保子
 中尾 克彦
 中島 加奈
 西村 奈津
 芳賀 知子
 鮎橋 郁香
 村川三津子
 横地 妙子
 吉野喜代子
 石川 青狼

霧多布湿原センター



霧のワタスゲ

第二十九回 東北海道現代俳句大会

七月九日 於帯広とかちプラザ

東北海道現代俳句大会賞

海霧冷えやどの俎板も傷をもつ

粥川 青猿

十勝毎日新聞社賞

釘一本打ちて凍土の息探る

江波戸 明

NPO十勝文化会議賞

ひとり言笑ってひとり冷奴

松原 静子

第二十九回東北海道現代俳句大会

今回は二〇一八年以来の帯広開催で、十五名の方の参加でした。石川会長挨拶のあと、「鈴木八駄郎と俳句」のタイトルで石川会長が鈴木八駄郎名誉会長に聞くという形のトークセッションがあり、八駄郎氏の俳句や人生に対する熱い思いを語って頂きました。会場には八駄郎氏所蔵の句集や葉書類などが多数展示され、中でも河東碧梧桐の日本に一点という短冊には皆、大盛り上がりでした。

休憩後、俳句大会表彰式と写真撮影をして無事終了することができ、皆様のご協力に厚くお礼を申し上げます。

(鮎橋記)



優秀賞

芽吹山木々それぞれの自由律
故人という余生のありてアロハシャツ
やすらかな死なぞあるんか鬼胡桃

早川 千鶴子
斉藤 郁子
清水 健志

佳作賞

卒寿なほ惜しむ命やしやばん玉
どの人と繋がるだろう花の雨

中島 土方
村川 三津子

海市消ゆことば豊かな人に逢う
鷹化して鳩となる朝の懸垂
阿寒嶺の襷むらさきに春暮るる
唇はいつも血の味四月吹雪く
月面産業人類侵略朧月
轟音ごとプリントアウトす雪解滝
百歳は十年の先青き踏む
泡で出るタイプの恋や春の風邪
AIの無人銀行多喜二の忌
まういいと言ふに撮らるる子供の日
ベビーカー眠る双子や釧路八重
葉桜やまた燃えてゐる私です
蜃気楼望遠鏡で探す嘘
春落日子供の夢の重さかな
一番も二番もなくて露のたう
岸壁の炉端にぎわう夏の宵
春光やうすらわいのねむり猫
通りやんせ呼ぶ海霧の向こう側
炎昼を転がしているフライパン
踏まれても生まれ変われぬ毒茸
北辛夷父よ遺言通りには

飯沼 風華
中村 きみどり
横地 妙子
鮎橋 郁香
佐藤 かよ子
吉野 喜代子
山田 美智子
菅原 秋子
中島 加奈子
寺田 保子
小飼 紫香
荒川 美恵
西村 奈津
山本 勲
吉田 洋子
北原 白道
金野 克典
脇本 文子
脇本 千尋
よしざね 弓
石川 青狼

編集後記…会報夏号は鮎橋事務局より、文字通りの手取り足取りご指導いた
だいて、編集を担当させて頂きました。アドバイスやご指導どうぞよろしくお
願い申し上げます。(斉藤記)

追悼

山陰進さんを悼む

副会長 粥川 青猿

二月に進さんが亡くなって早や五ヶ月。進さんとの来し方を感謝を込めて幾度となく思い返している。四十年ほど前、転勤先の団地で進さんから誘われた大空俳句会は、新人の私にとって大変貴重な研鑽の場となった。やがて鈴木八駄郎さんの句会にも参加する中で、八駄郎さんと進さんが現代俳句の北のパイオニアであることを知った。この二人の優れた先達に出会えたことは、まことに幸運としか言いようがない。

平成二年、東北海道現代俳句協会が設立され、進さんは四年後に事務局長に就任。その後副会長、顧問として長年にわたり協会の活動に貢献。各句会での柔和な表情で語る選評は的確で、誰しも認める説得力があった。また細谷源二の研究者としても知られ、新俳句人連盟の十勝での大会で講演をしてもらったこともある。進さんが上梓した二冊の句集と源二論が掲載された氷原帯、鈴木竜児の遺句集は私にとって掛替えのない宝物であり、本当に形見になってしまった。改めて感謝をこめて進さんのご冥福を祈り、忘れ得ぬ五句を紹介させて頂く。

補聴器に雪が降ったりやんだりする
からす麦穂並いびつに原爆忌
白鳥の顔が敷きつめられている
鳥帰る人が真顔に還るとき
猫柳もう音楽となつてゐる

山陰 進

村 牛歩さんの思い出

鮎橋 郁香

まだ年が明けたばかりの一月九日、朝刊を開いて吃驚した。お悔やみ欄に木村 勲氏（ご本名）が載っている。え、何かの間違いでは？ だって一月句会の投句が届いたばかりだし・・・九時になるのを待ち、青狼会長に電話しながら涙が止まらなかった。

後に奥様にお伺いした話だが、道新の俳句講座で青狼会長の指導を戴いてからは本当に俳句が大好きで、一月の投句は入院された牛歩さんに託されて奥様が投函してくださったとのこと。

牛歩さんは二〇二一年に釧路春秋賞俳句部門を、続けて発表された創作小説により二〇二二年に同賞創作部門を連続で受賞という快挙を達成された。昨年十一月お目にかかった時、「また書くよ」と言っておられた笑顔が、沁みるように胸に残っている。心よりの感謝を込めて、ご冥福をお祈り申し上げます。

今はなき愛車の出口雪を掻く
執拗な侵攻背高泡立草
難聴を悪友と呼び桐一葉
鮭風廃駅跡の転車台
鱈ルイベ酒も地の物搾りたて

村 牛歩

令和5年度上半期 わたしの一句

早くも今年の半分が過ぎてしまいました。
皆様の思い出の一句をお楽しみください。

瓦礫なお冬のひまわり沖を向く
雪景色覗く針穴に糸通す
ボインセチア転職を考えている
雪女郎トラリアングル連打中
めでたさや屠蘇酌む嬢の笑い皺
風の糸手繰れば父の生命線
短夜や開きしままの歎異抄
日(にち)にちを使命帯ぶかに生く追儼
白湯呑めば臍物に意志寒の明け
春はあけぼの母へさいごのさやうなら
晩年は丸くまあるく木の根明く
啓蟄やバググから出すエコバッグ
春めくや肩に手をおくツーショット
野の風の光はなさぬ猫柳
転生の標と待む花こぶし
近く迄来たからと云う花辛夷
黙考にほどよき長さ辛夷咲く
春うらわらわたりもあなたも非国民
小町川全長八キロ花筏
峽に落ちる蝶ひとつの望郷
地虫出づマトリョーシカの中の真理
耕や土の吐息を裏返す
遍路道避難タワーが空にあり
サイフォンにほのお蛙の目借時
順調に老い迎へをり茂りをり
蚊を打ちてこの手観音開きかな
雷鳴や渾沌としてウクライナ
声白き鴉よ僕らメメントモリ
父母のいた樺太というロシアの地
海霧の抱擁エトピリカを探せ

石川青狼 佐藤かよ子 清水健志 横地妙子 江波戸美恵 荒川紫彦 小飼克彦 中尾土方 中島奈津 山村勲 山本よしざね 金野克典 吉野喜代子 飯沼風華 芳賀知子 寺田保子 菅原積子 菅田洋子 吉田郁香 鮎橋郁子 齊藤鶴子 早川千鶴子 山田美智子 松原白道 北原白道 中村きみどり 中島加奈 那珂剣坊子 粥川青猿

＝現代俳句協会の社団法人化について＝

現代俳句協会は本年四月一日付で「一般社団法人 現代俳句協会」となりました。

これにより社団法人と地区協会とはそれぞれ独立の存在となり、互いに俳句振興のために協力・提携をして参ります。しかし会員の俳句活動等については、従前と何ら変わることはありません。具体的には

- ①会員、特に新規入会者については、その地区協会の会員になるか否かの確認を必要とします。
- ②これまでは協会全体を規定する規約がありましたが、今後は地区独自の判断と決議方法により決めることができます。
- ③助成金については、地区協会の正確な名簿に基づいた金額が出されることとなります。
- ④以上の内容を以て会員個々が自由闊達な俳句活動を継続していくとし、四月一日付で「一般社団法人現代俳句協会」と「東北海道現代俳句協会」との間で覚書が締結されました。

紙幅の関係でごく簡単にしか書けませんでした。新たな「東北海道現代俳句協会」として、今後とも皆様のより一層のご理解とご協力をお願いするものでございます。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。

東北海道現代俳句協会 会長 石川青狼